

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続＞

雌阿寒岳では、火山活動の活発な状態が継続しています。

本日（16日）、北海道の協力により実施した上空からの観測では、引き続きポンマチネシリ96-1火口から噴気が勢いよく噴出しており、ポンマチネシリ火口内及びその近傍には火山灰の明瞭な堆積が認められました。

【防災上の警戒事項】

ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体などの指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況

本日（16日）、北海道の協力により上空からの観測を実施しました。ポンマチネシリ96-1火口では、前回の観測（8月22日）と比べて、噴気が勢い良く噴出していることを確認しました。また、昨日実施した現地調査と同様にポンマチネシリ火口内及びその近傍には火山灰が堆積していました。ポンマチネシリ赤沼火口や中マチネシリ火口等、その他の火口ではこれまでの観測と比べて、特段の変化はありませんでした。

本日（16日）15時現在ポンマチネシリ96-1火口では、白色の噴気が火口縁上約200mの高さまで上がり東に流れており、噴気の量は、引き続き多い状態で経過しています。

12日の火山性微動に伴って発生したポンマチネシリ火口方向が上がる傾斜変動は、その後も緩やかに継続しています。

ポンマチネシリ火口付近の地震活動は、増減を繰り返しながら継続しています。

○活動評価

雌阿寒岳では、火山活動が活発になっており、今後、ポンマチネシリ火口から約500mの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』、『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています

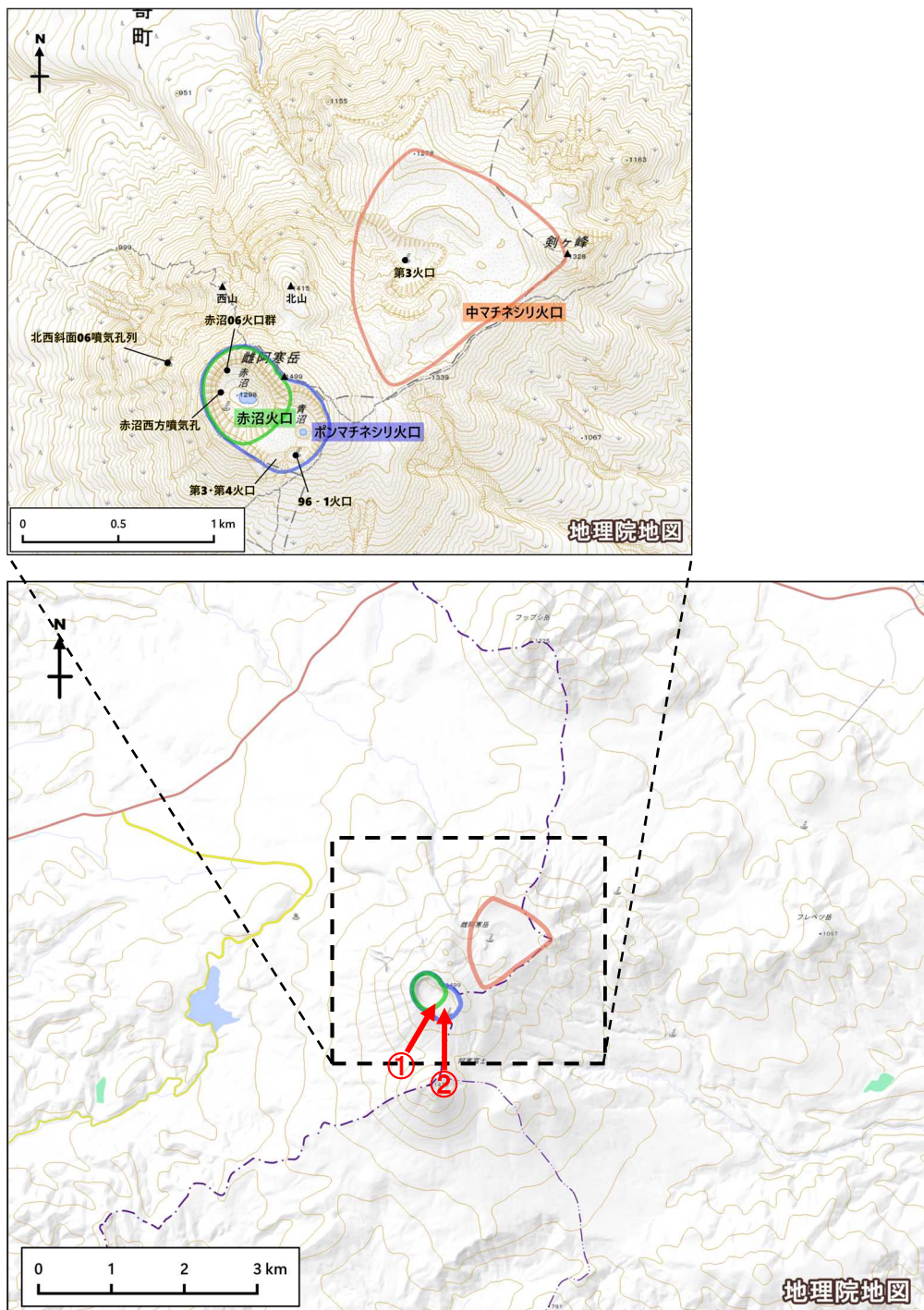


図1 雌阿寒岳 火口及び噴気孔の位置図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）
各火口の火口縁は、概ねの範囲を示すものです。



図2 雌阿寒岳 ポンマチネシリ 96-1 火口周辺の状況

南東側上空（図1の①）から撮影 白破線：火山灰が明瞭に堆積している範囲を示しています。

- ・ ポンマチネシリ火口内及びその近傍には火山灰が堆積していました。

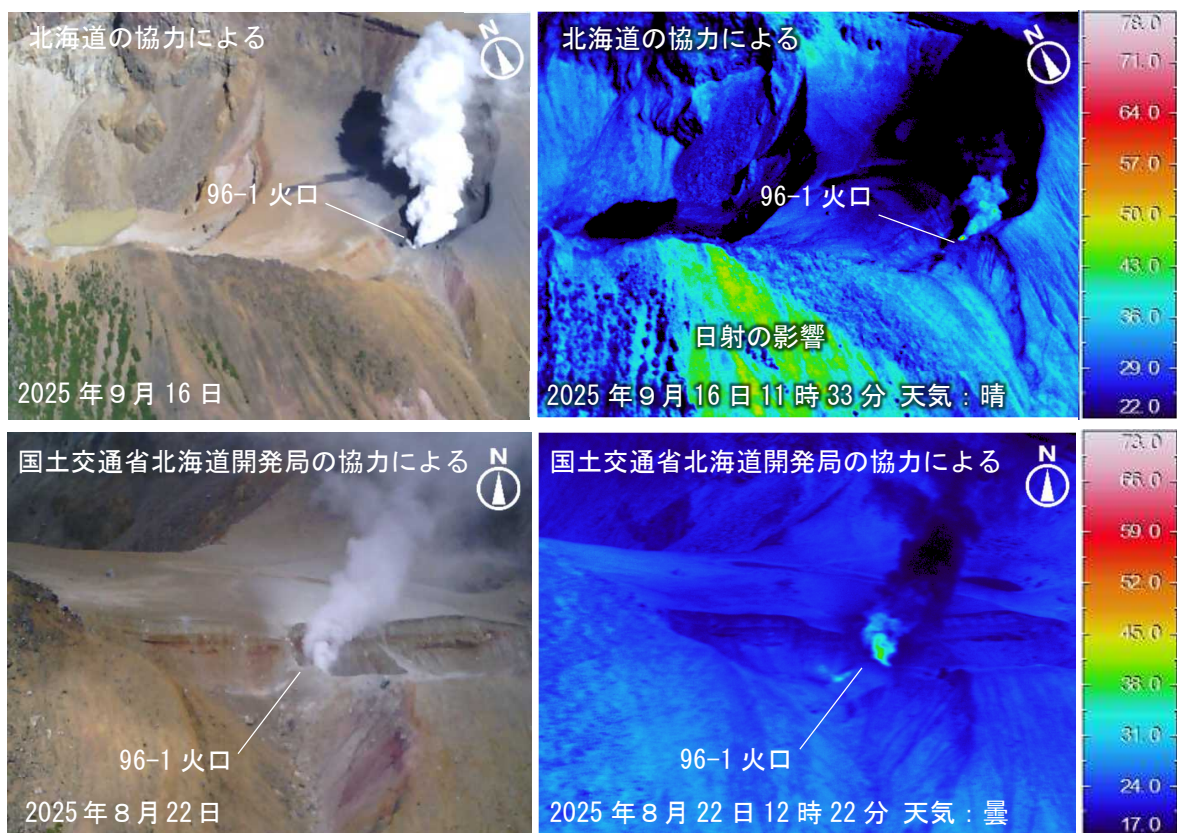


図3 雌阿寒岳 赤外熱映像装置によるポンマチネシリ 96-1 火口の地表面温度分布

上：南東側上空（図1の①）から撮影 下：南側上空（図1の②）から撮影

- ・ 前回の観測（8月22日）と比べて、噴気が勢い良く噴出していることを確認しました。
- ・ 96-1 火口周辺の地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。



図4 雌阿寒岳 南東側から見たポンマチネシリ火口の状況（^{かみてしべつ}上徹別監視カメラによる）

- ・ポンマチネシリ 96-1 火口では、白色の噴気が火口縁上約 200mの高さまで上がり東に流れており、噴気の量は、引き続き多い状態で経過しています。

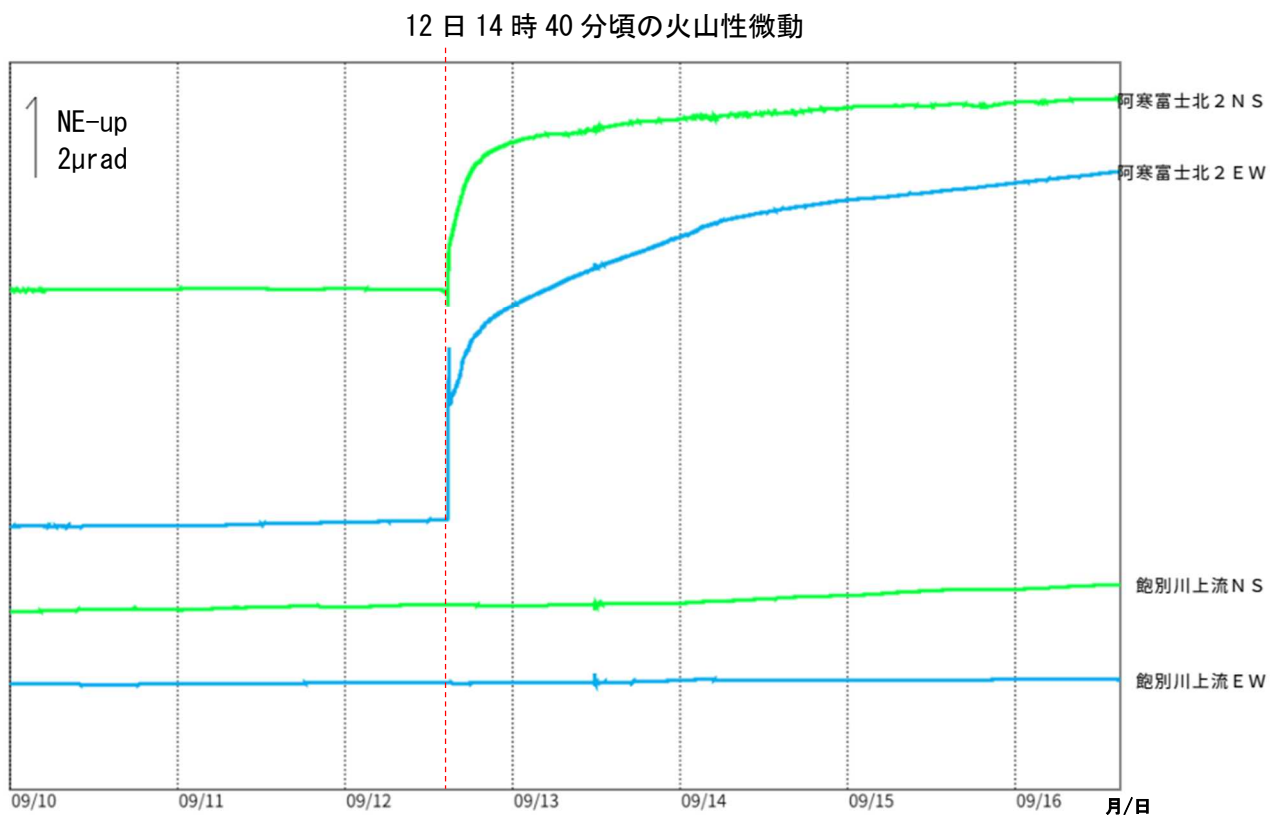


図5 雌阿寒岳 傾斜変動の状況（2025年9月10日00時～16日15時）

- ・12日の火山性微動に伴って発生したポンマチネシリ火口方向が上がる傾斜変動は、その後も緩やかに継続しています。

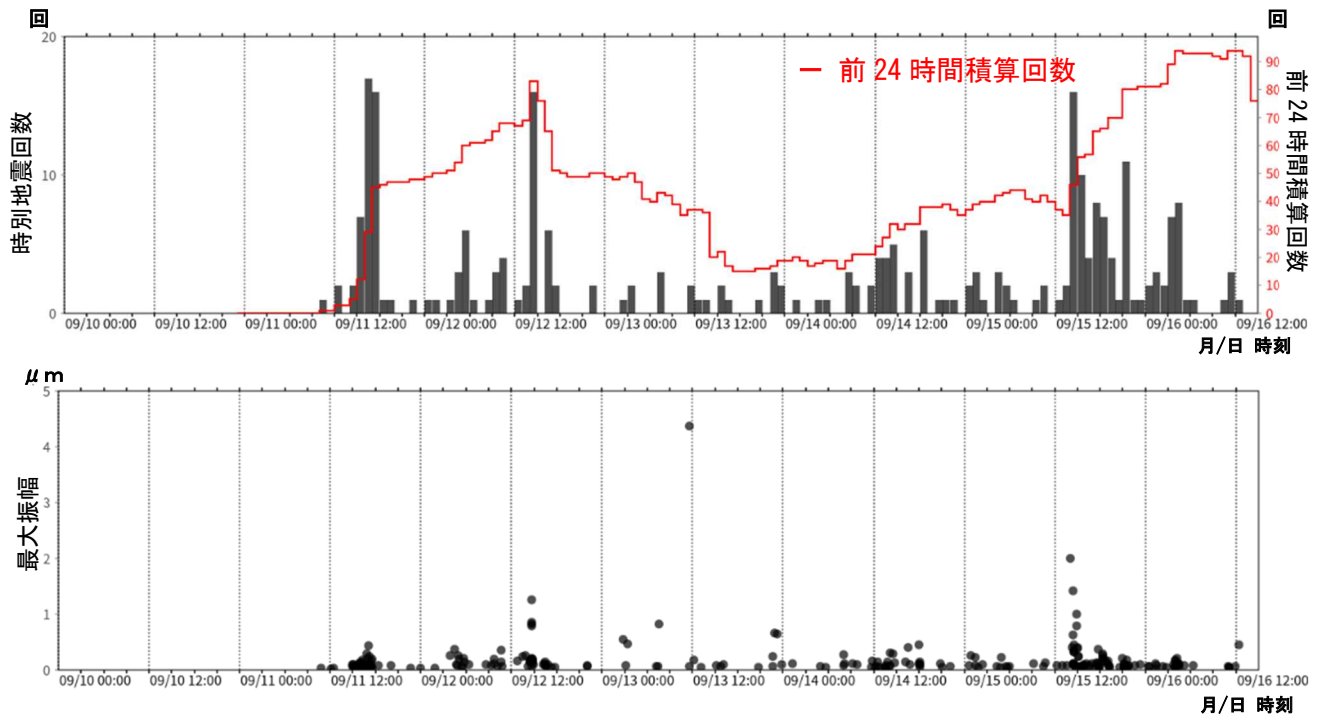


図6 雌阿寒岳 火山性地震の発生状況（2025年9月10日00時～16日15時）

上：特別地震回数（速報値） 下：オンネトー南東観測点南北成分の変位最大振幅

・ポンマチネシリ火口付近の地震活動は、増減を繰り返しながら継続しています。

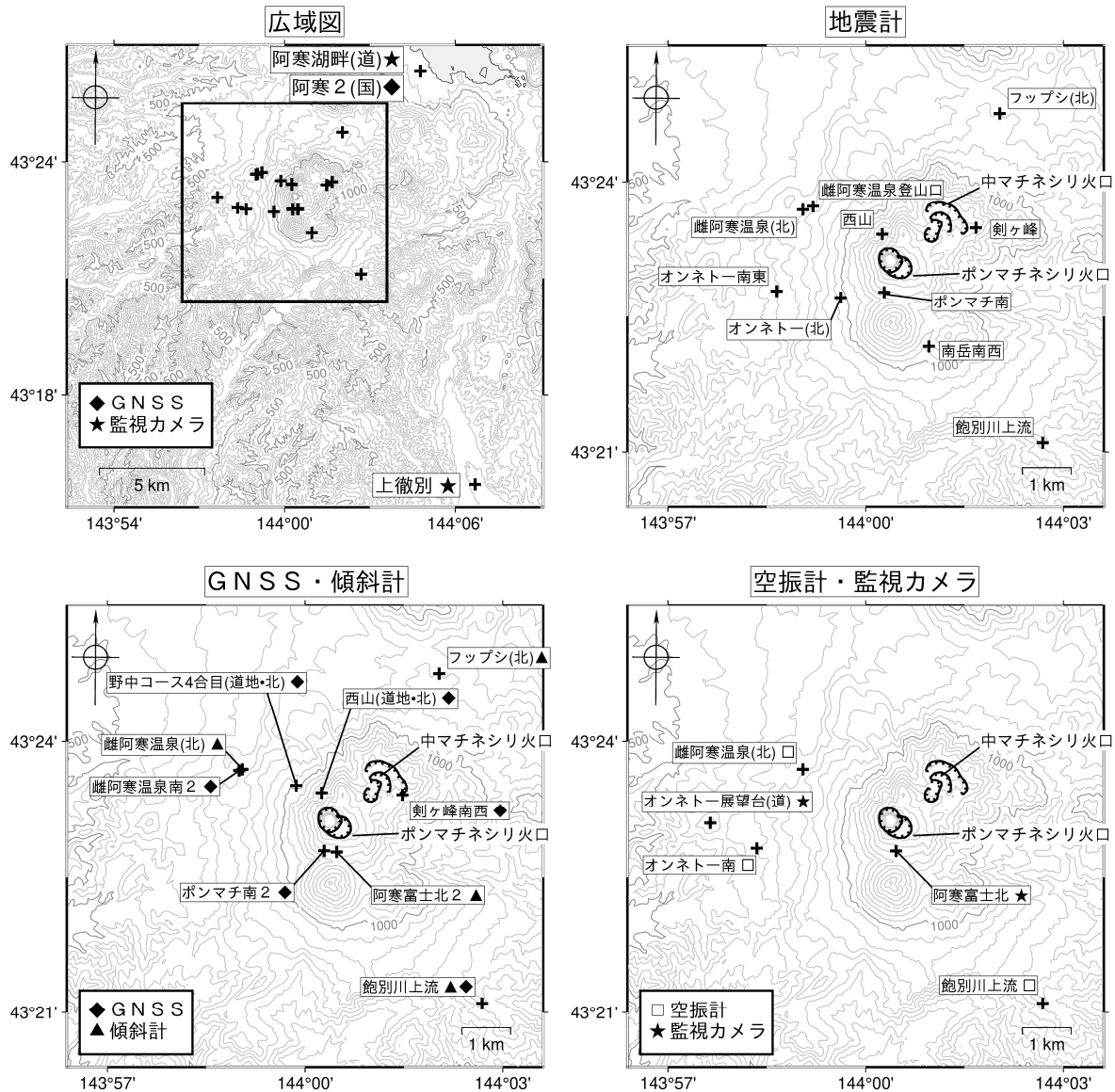


図7 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は広域図内太枠線で示した領域の拡大で、+印は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院 (北)：北海道大学 (道)：北海道
(道地)：北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所